

陽だまり

10月9日

生徒指導通信No.13

心がとてもあたたかくなる「誰かのために行動する優しさ」についてのお話を紹介したいと思います。

ある日の放課後の出来事

先日の放課後、住宅街で、小学生が自転車で転倒し、ケガをして困っている姿がありました。痛さと不安で立ちすくんでいた小学生。その様子を見かけた本校の生徒は、迷わずその子のもとへ駆け寄り、「大丈夫？」と優しく声をかけました。そして、生徒はその小学生の様子を心配し、寄り添いながら一緒にその子を自宅まで送ってくれました。しかし保護者の方が不在だったため近くの小学校まで送り届け、状況を小学校の先生に丁寧に報告しました。さらに話はそれだけでは終わりません。ケガをした場所に残されたままの自転車を心配して、「自転車を取りに行ってきます」と言って、再び元の場所まで自転車を回収しに行こうとしてくれたのです。不安の中にいた小学生や報告を受けた先生方が、どれほど心強く、感謝されたことでしょうか。その日のうちにその小学校の校長先生が「とても爽やかで素晴らしい生徒さんだった。」とゆりのき台中学校に電話をくださり、私たち教職員一同も深く胸を打たれました。

世界を感動させた「ラグビーカナダ代表」と釜石の絆

困っている人を前にしたとき、見過ごさずに行動を起こす優しさは、国や立場を超えて人々の心を動かします。

2019年に日本で開催されたラグビーワールドカップでの出来事です。岩手県釜石市で予定されていた試合が、大型台風の接近により中止になりました。長年準備してきた大切な試合が中止となり、カナダ代表の選手たちも非常に悔しく落胆したはずですが、しかし、彼らはすぐに帰国するのではなく、試合が中止になった日、カナダ代表の選手は自らスコップを手にとり、台風で浸水被害を受けた釜石の街へ向かいました。そして、泥で汚れた家屋や道路の清掃ボランティアに汗を流したのです。

「ラグビーが全てではない。困った人がいて、我々にできることがあれば率先してやるだけ」と自分たちに今できることは何かを考え、国籍も言葉も違う地域の人々のために自発的に手を差し伸べた彼らの行動は、日本中、そして世界中から称賛されました。

相手の立場に立った「思いやり」を行動に

本校の生徒が見せてくれた行動も、まさにこのカナダ代表の選手たちと同じ「相手を思いやる温かい心」から生まれたものです。単に「声をかける」だけでなく、「相手が今、何に困っていて、どうすれば安心できるか」を最後まで考え、行動に移すこと。いざというときに一歩踏み出すには少しの勇気がいりますが、その一歩が困っている誰かの心を救い、互いを信頼で結ぶきっかけになります。

誰にでも優しく手を差し伸べられる人になってほしい

ほんの少しの勇気と「大丈夫ですか？」の一言が、誰かの心を温かく照らし、安心感を与えることができます。本校の生徒一人ひとりが、「困っている人がいたら、誰にでも当たり前のように優しく手を差し伸べられる素敵なお人」へと成長していつくれることを、心から願っています。

優しさは、次の優しさを生み出します。皆さんの温かい行動で、この学校や地域がさらに笑顔あふれる場所になっていくことを楽しみにしています。